

第292号・2024年7月23日(火)

発行・東北大学職員組合書記局

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1
内線 片平 (91) 5029

022-227-8888 (TEL) 022-227-0671 (FAX)

<https://tohokudai-kumiai.org/>

編集・コア編集委員会



- * ウラガネ政治の大増税 No !
- * 政府は選択的夫婦別性、早く !
- * 政府は国立大に 1600億返せ !

定期大会 (7月27日)

国際卓越研究大学認定で予想されるトップダウンに抗ひ、 民主的運営の維持と働きやすい職場作りを !

片山知史執行委員長



雇止め方針撤回せよと訴える片山委員長

2023年12月に国立大学法人法の一部が「改正」されました。一部の国立大学を特定国立大学法人として合議体・運営方針会議を設置、その運営方針会議の委員選任は大臣承認というものです。大学意思決定がトップダウンで行われ、時の政府がその意思決定に影響を与える制度です。2024年10月から施行されます。

同時に開始される見込みの国際卓越研究大学ですが、最終候補に1校残った東北大学は、認定の可能性が高くなっています。東北大学はこれまで、認定に向け

て注力し、その申請書には学内議論なしに数多くの改革案と、高い数値目標を明記しました。設置される運営方針会議による方針提示と業務監督は、間違いなく大学の自治を崩すものです。これまで長く維持していた民主的な運営が損なわれないよう、厳しく見ていく必要があります。また高い数値目標については、その達成を担うのが現場の教職員です。今でも現場は業務過多なのに、労働強化が容易に想像されます。大学運営についても、労働環境についても、労働組合の役割は今以上に大きくなります。

本議案書では、国際卓越研究大学への対応、無期転換問題への取り組み、学内民主の維持、組織拡大について提起します。支部における検討と積極的な議論をお願いするとともに、学内世論を引き起こし要求実現に取り組み、さらには組合員拡大につなげていく必要があります。

一方、組合組織については、組織率減少が継続しています。広く勧誘活動を行っているところですが、正職員の加入が少なく、支部や個人からの借入や力ンパによって予算を維持している状態です。組合員拡大と収入確保が、私たちの必須課題となります。

2024年期も、現場の要求に基づく雇用安定、待遇改善、要求実現、働きやすい職場作りのために取り組む所存です。大会における積極的な議論をよろしくお願いいたします。

東北ろうきん をご利用ください

組合員限定 ローンの金利が

お得です

気軽に下記まで

0120-1919-62

4/13 国立療養所東北新生園見学会

「人権学習」として多くの人に知ってほしい



この霊安堂にほとんどの患者さんが亡くなっても家に戻れず眠っておられます

4月13日に医労連主催で国立療養所東北新生園の見学会があり参加してきました。

ここは1943年(昭和14年)にハンセン病(らい病)の療養施設(400床)として開設、一時は770床(昭和29年)までの規模になった全国で13ヶ所ある施設の1つです。

東京ドーム7・5個分の広大な敷地の中には療養しながら生活していくことのできる住宅はもちろんのこと、図書館、郵便局、教会、ホールなどが残っており、現在は26名の方が治療を続けながら生活をしています。

当に何の病気なのか、どうい治療を受けてきたのか、そしてどうい待遇を受けてきたのかなど本場の事を知らないまま今に至ってしまいました。今でもこの田舎の片隅の限られた場所、家族や親族友だちと引き離されて一生を終える人生があるというこ

とを知り衝撃でした。

1873年(明治6年)にノルウェーのハンセン医師によりらい菌が発見されて以来、日本では1931年(昭和6年)の「癩予防法」制定、1948年(昭和23年)(ハンセン病患者に対する)



資料館の中で新生園の歴史を見ることができるそうです(この日は休館日のため見られませんでした)

見と差別が残っていました。

熊本地裁での違憲国家賠償請求訴訟勝訴後、2002年(平成14年)に全国50の新聞紙上に厚生労働大臣名で謝罪広告が掲載され、この

長い間、苦しみに耐えてきた人々が存在したという歴史をあらためて知る事となります。

園内ツアーではかつてたくさん患者たちが職員たちの力を借りながら、お互い助け合い肩を寄せ合って暮らし一生を終えていく様子を感じ取ることができ、きれいに整備された自然豊かなこの地で

「優生保護法」制定から長い年月を経て1996年(平成8年)にやっと「らい予防法」が廃止されましたが、社会における偏

に「人権学習」として

一度は見学して知ってほしい遺産だと思いましたが。

(多元研支部 後藤洋子さん)

宮城県労連第76回評議員会
2024年国民春闘方針決定
東北大学の取り組みに学び無期転換



鎌内事務局長による情勢報告と方針提案

2024年6月1日の引き上げ」の重要性午後にはショーケービルを確認しました。

で、私たちが加盟する宮城県労働組合総連合の第76回評議員会が開催され、2024年国民春闘中間総括と6月以降の方針討議を行いました。

物価高騰が、労働者、県民の生活を圧迫する中、「賃上げ、夏季一時期の上積み」「物価上昇を上回る最低賃金

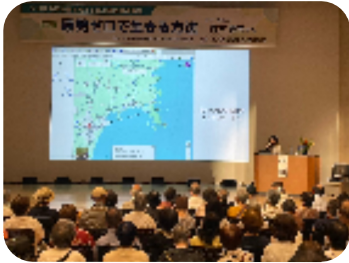
その他、各職場での組合活動の経験交流などを行い、全ての議案が承認され、閉会となりました。

なおこの春、JMI-TU宮城地域支部の組合員1名が無期転換できたのですが、この方は東北大職組の取り組みから学んで交渉し、成果を得たとのことでした。

(片山 知中委員長)

「Stop!女川原発再稼働 宮城県集会」

危険のリスクが大きい再稼働 必ずストップを



現地調査にもとづき講演する青木さん

7月7日に550名が女川の町に集結し、「Stop!女川原発再稼働 宮城県集会」が開催されました。女川原発2号機は被災原発であり、老朽原発です。事故を起こした福島原発と同じ型で危険のリスクは大きく再稼働などんでもありません。



「原発いらない」「事故があっても逃げられない」と大きな声でコールしながら

能登半島地震で明らかになった家屋の倒壊が起これば屋内退避が不可能になり、道路の寸断で避難したくとも避難できない事態が発生し、原発の避難計画は破綻します。専門家による安全性検討会を再度設置し、海底活断層の連動性や地盤の隆起・沈降を含めた知見に基づき安全性の検証



女川町での行進は30年ぶりとのこと

をするべきなのです。ジャーナリストの青木美希さんの講演は丁寧な現地調査に基づいた報告を中心にテンポ良く情報が満載で、時

方に見送られながら、ストップさせましょう！

バス3台で仙台から参加した我々は女川を後にしました。女川原発2号機の再稼働は必ず戦争の爪痕をめぐる平和バスツアー

仙台の戦跡

こんなところにも

4月21日(日)、県労連と平和委員会主催の平和バスツアーに参加しました。よくジョギングしていた榴ヶ岡公園や通勤路であった五色沼近辺にこのような碑があることを初めて知りました。(編 M)



↑ 五色沼の隣 軍馬軍用動物彰忠塔

↓ 榴ヶ岡公園内 満州事変の首謀者 石原莞爾(かんじ) 将軍の碑



第63回宮城県母親大会 in 大崎

11月17日(日)

記念講演: 安田菜津紀さん

フォトジャーナリスト

第69回はたらく女性の中央集会 in 岩手

11月16日(土) 全体会

記念講演 和田静香さん(ライター)

「私たちが安心して暮らすために 考えたい身近な政治」

11月17日(日) 分科会

「平和」「働き方」「防災」「女性差別撤廃条約」



今年もサンマは・・・

農学部支部 片山知史さん

サンマが減少したことはありません。最近何とについては、隣国が先に獲ってしまうから、という報道が少なくありません。もちろんその影響はゼロではありませんが、主要要因ではないと思います。最近何かあると全て、**国が悪い、**国のせいだという声が聞かれますが、それは偏見がちょっと意図的ですね。

ノーモアヒロシマ・ナガサキ・ヒバクシャ

2024年原水爆禁止国民平和行進

戦争ではなく 平和のための準備を

今年も宮城県内では気仙沼市仙台市コー

スと栗原市若柳丸森コー元農学部支部の組合員スを行進し、6月20日、元鍛冶丁公園で行進合流・交流集会が行われました。



5月6日に礼文島を出発しました



たくさんの平和行進ペナントが寄せられました

日程

- * 柳沢協二さん講演会 8月4日(日) 13時半 仙台弁護士会館4階
- * 8.15戦争を阻止する平和集会 8月15日(木) 13時半 仙台メディアテーク

編集後記

毎日のように各地で、また世界で甚大な自然災害が起きています。

持続可能な世界の実現のために世界の人々が力をあわせないと危険を感じます。戦争などしている場合ではありません。原発の再稼働も止めましょう。

旧優生保護法について最高裁が違憲だと断じました。あらためて「人権」について考えさせられました。

組合は、定期大会後に新体制でスタート。要求実現のためには新しい仲間を迎えることが不可欠です。(M)

サンマの不漁の原因は、基本的にサンマ資源量の減少です。漁業資源の資源量は漁獲圧と環境要因によって変動します。サンマ、サケ、スルメイカのいずれも、1990年半ば以降は豊漁でした。し

かし2015年前後から水揚げ量が大きく減少してしまいました。もしこの減少が乱獲ならば、以前に豊漁だった原因を説明できなかった原因を説明できません。主な要因は環境変動です。実は、海の生物資源の多くは、地球規模の気象海洋環境が数十年スケールで変動することによって、大規模に増減しているのです。サンマ、サケ、スルメイカも、今ちょうどその低迷期にあるのです。

もう一つの背景には、分布域が沖合に移ったこと、さらに沖合のサンマが日本の近海まで回遊してこなくなったことも影響しています。三陸沖は北からの親潮



と南からの黒潮が混じわることで、世界三大漁場の一つが形成されます。しかし近年、親潮の勢力が弱く、沿岸に寄ってきません。遠い沖を通過して、産卵場である黒潮域に南下してしまいます。実はこの親潮が弱いことで、コンブ、ワカメ等の海藻(養殖を含む)が必ず要とする栄養塩が不足の気味であり、岩礁資源の生産にも影響を与えています。